

終章 都市計画マスタープランにもとづく
まちづくりの推進

終章 都市計画マスタープランにもとづく まちづくりの推進

1) 都市計画に対する理解を進める

都市計画マスタープランは、高石市の総合計画を主として都市空間の面から実現していくための基本的な方針を示すものです。

都市計画マスタープランにもとづくまちづくりは、行政のみならず市民、事業者等様々な主体が互いに協働し、適切な役割分担のもとに進めていくことが求められています。

今後、本市のまちづくりを積極的に進めていくためには、市民や事業者等が身近な地域のまちづくりに主体的に関わっていく機会が増えてきます。

そのため、都市計画マスタープランを、行政にとっての都市計画の指針と位置づけるだけでなく、わかりやすい形で市民や事業者等に提示し、各々が都市計画に対して理解を深め、地域のまちづくりを始める際のきっかけとなるよう有効に活用していきます。

2) 地域主体のまちづくりを支援する

高石市は主要3駅を中心に歩いて暮らせるコンパクトな市街地であり、3つの生活圏が形成されており、それぞれの地域において特徴のある歴史と文化が蓄積され、市民生活や祭事等が営まれています。

定住化が進む生活圏においては、地域コミュニティが成熟し、住民自らが地域を愛し、自らの責任と努力で住みよい地域社会を築いていこうとする動きが現れてきています。

今後の地域のまちづくりにあっては、都市計画マスタープランを一つの素材として、地域住民自らが、地域の課題や将来を話し合い、地域づくりの構想を議論し、行政とともにその実現を担っていくことが期待されます。

そのために市は、市民や事業者、市内外の大学や企業、専門家等と連携し、まちづくりに関する各種の助言等を受けながら、市全体や地域社会の発展に寄与するよう地域主体のまちづくりを支援していきます。

3) 今後の見直しについて

今回の改定は、本市をとりまく人口減少や少子・高齢化、緊迫する財政状況、大規模開発の動き等、様々な社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、前回の平成14年(2002年)策定から6年後の平成20年(2008年)に見直しを行いました。

都市計画マスタープランの内容は、固定的なものではなく、まちづくりに関わる様々な条件の変化に応じて適時見直されるべきものです。特に、第4次高石市総合計画の改定に際してはその内容と整合を図りながら、適宜、見直しを行っていく必要があります。

見直しにあたっては、原則、上位計画である総合計画で示されるまちづくりの目標を継承しながら、それぞれの地域で住民が主体的に話し合い策定したまちづくりの構想や、各都市計画事業の進捗に応じて、公共的な観点及び都市全体の広域的な観点から検証しながら、その内容を都市計画マスタープランに反映していきます。